

日本核医学技術学会第 29 回東北地方会総会学術大会開催にあたって

日本核医学技術学会第 29 回東北地方会
大会長 成田 将崇

この度、日本核医学技術学会第 29 回東北地方会の大会長を拝命しました。大会開催にあたり、会員ならびに関係者の皆様に謹んでご挨拶申し上げます。

本学会では 9 月 21 日（土）～22 日（日）までの会期中に、RI 検査技術に関する基礎的研究発表や近年急速に発展している機械学習技術を研究に生かすための講演など、新人からベテラン技師へのスキルアップを支援するプログラムを予定しています。

スキルアップを図る際には「何が出来るか」という視点が重要となります。私自身の話となりますが、職員のスキル習熟を考えるにあたって、1970 年代にドレイファスらにより研究・定義されたドレイファスモデルを知る機会がありました。このモデルでは、技能を習得していく過程は 5 段階に分かれるとされています。

1. 初心者：過去に経験したことがないので、どのように行動すべきか導いてくれる原則を与えてもらう必要がある。
2. 新人：手順に沿って行うような対象は一通り身につけ、かろうじて及第点の業務を行うことが出来るレベル。
3. 中堅：周囲の支援がなくても、一通りの業務を担当できる。ある技能レベルに達している自信と不測の事態に対して管理する能力を持っている。
4. 熟練者：状況を局面の視点ではなく全体として捉えることができる。経験に基づいた全体像を把握する能力があるため、事態が予測される経過をとらないときでも、異常の発生を察することができる。
5. 達人（匠）：自分の状況把握を適切な行動に結びつけるのに、分析的な原則（規則、ガイドライン）に頼らない。膨大な経験を積んでいるため、筋違いな対策を検討するといった無駄をせず、一つ一つの状況を直感的に把握して適切な対応に的を絞ることができる。

今回のメインテーマは「核医学の匠を目指して」としました。ドレイファスモデルを踏まえると、匠までの道のりは永いと感じます。熟練の実践的スキルを身につけるためには、核医学技術の進歩を受け入れながら、裏側にある基礎実験や画質管理といった、RI 担当者としての学びを積み重ねることが必要です。

殆どの方は、スキルを習得するには「経験」が必要と思われるのではないのでしょうか。「経験」は単なる時間の経過や長さを指しているわけではなく、数多くの実践的状況に遭遇することで、自身の先入観や考えを改良していくことだと思います。この学会が、核医学に関する知識と技術の交流の場となり、参加の皆様にとって新たな一步を踏み出す有意義な経験となることを願っております。

最後に本大会の開催に際しまして尽力いただきました実行委員の皆様から心から感謝を申し上げますとともに、関係者の皆様から多大なご協力とご支援を賜りました事を深くお礼申し上げます。